



第三者意見

2024年10月1日に東京証券取引所スタンダード市場への株式上場をされたとのこと、おめでとうございます。

上場を契機として、コーポレート・ガバナンス体制の強化、長期ビジョンの策定、中期経営計画により、貴グループのいっそうの持続的成長と企業価値向上の実現に加えて、さらに社会的価値が向上していくことが期待されます。

そこで今年は、このような貴グループの現状を背景にしたこれらの取り組みを振り返り、今後への期待を述べたいと思います。

博士（総合政策）、
サステナビリティ消費者会議代表

古谷 由紀子氏



プロフィール

■サステナビリティ消費者会議代表、(一財)CSOネットワーク顧問
博士（総合政策）、(一社)経営倫理実践研究センターフェロー

■企業の品質、コンプライアンス、デジタルトラスト、サステナビリティなどの社外委員を務める。専門分野は、CSRや人権などサステナビリティ、消費者志向経営など。

■主な著作物は、「現代の消費者主権」芙蓉書房出版(2017)、「『責任あるビジネス』における実践と課題」ABES(2020)、「『人権リスク評価』にライツホルダー視点をどう組み込むか〜企業が人権尊重責任を果たすために〜」ABES(2022)など

あるべき姿「麵食を通して価値創造を実現し、人を笑顔にする会社」に向けて

長期ビジョン「Shimadaya Change & Growth100(SCG100)」を「シマダヤのあるべき姿」を見据えてゴールを設定してバックキャストした「中期経営計画」は貴グループの確実な目標が達成されることが期待されます。

「環境」については、従来から「シマダヤグループ環境基本方針」が策定され、いくつかの中期環境目的・目標に向かって、調達から物流、商品の拡大などにおいて確実な環境負荷軽減や貢献などの実績を積み重ねていることが報告されています。また、「社会」については、「お客様のニーズに応える商品開発」や「安全・安心への取り組み」など、「ガバナンス」については、「基

本的な考え方」や「コンプライアンス／リスクマネジメント」などの取り組みが開示されています。

今後、貴グループ全体で「シマダヤのあるべき姿」を実現していくためには、持続可能性への取り組みとして方針を策定し、「環境」「社会」「ガバナンス」について「中長期目標」を全体として可視化して管理していくことも検討されてはいかがでしょうか。各種取り組みを拝見する限りその素地は十分整っているように思われます。さらに、それらを具体化するKPIの設定も併せて検討されるといいのではないのでしょうか。

情報開示のさらなる充実を

貴グループでは、従来から「環境目的・目標」の取り組みの実績や「働きやすい環境づくり」の実績の開示が積極的になされています。2025年度はそれらに加えて、「環境」や「社会」における社員の声も紹介されるなど意欲的に情報開示に取り組ま

れています。今後貴グループの取り組みの信頼性向上のためには「商品開発や改善」や「お客様の声」の実績とその取り組みに関するデータなども開示されることが上場企業として期待される情報開示に添えていくことになるでしょう。

コンプライアンス／リスクマネジメントの見直しによるガバナンスの強化を期待

現在企業を取り巻く社会状況は企業のコンプライアンスやリスクマネジメントのあり方も変化を迫られています。特に企業の人権尊重責任への要請です。サプライチェーン上の人権リスクを特

定して是正し、人権侵害を回避するための「苦情処理」の仕組みを設置することが求められています。貴グループのお客様視点をより発展させることで可能になると思われます。

第三者意見を受けて

今年も古谷様より貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。本年度は、昨年度からスタートした中期経営計画の2年目にあたり、環境活動も事業活動に即した目的・目標を掲げて推進しております。昨年10月には東京証券取引所スタンダード市場に株式を上場し、上場企業としての責務を果たすべく、コーポレート・ガバナンスの強化、透明性の高い情報開示、リスクマネジメントの適切な運用を通じて社会的信頼の一層の向上に努めております。環境活動は、これまでも社会や地域への貢献を軸として取り組んできました。今後はその基盤を継続した上で、サステナビリティへの対応を一層強化することにより、持続可能な社会へ貢献するとともに、当社の持続的成長を両立させ、「創業100周年のありたい姿」に向けて取り組んでまいります。



シマダヤ株式会社
執行役員 人事総務部長
飛沢 康行